

ナフサショック

2026年2月末以降、米国・イスラエルによるイラン攻撃をきっかけとして、世界の原油輸送の大動脈であるホルムズ海峡の通航が事実上困難な状況になりました。日本の原油輸入の約9割は中東産が占めており、その影響は石油化学産業全体に波及しています。原油には国家備蓄の仕組みがありますが、ナフサには国家備蓄の制度がなく、ナフサ単体の民間在庫は約20日分程度しかありません。ナフサ価格の急騰により幅広い業界にコスト高の影響が出ており、この現象を**ナフサショック**といいます。

ナフサとは

ナフサ（粗製ガソリン）は、原油を精製するときに得られる石油化学工業の基礎原料です。主な用途として、「プラスチック」「合成樹脂」「塗料」「化学製品全般」があり、幅広い用途で使われています。



ナフサショックの影響

2026年3月、三菱ケミカルグループ・出光興産・三井化学・旭化成などが相次いでエチレン設備の減産を発表しました。国内6か所の半数以上に相当する拠点での減産が始まっており、その影響は一度に来るのではなく、以下のような「時間差の波」として段階的に値上げまたは在庫不足の波が広がってきます。

- ①第1波（即～1ヶ月）ガソリン・LPG・電気代・航空運賃
 - ②第2波（1～2ヶ月）食品包装材・洗剤・シャンプー・紙おむつ・タイヤ
 - ③第3波（2～3ヶ月）**建材**・衣料品・家電部品・自動車部品
 - ④第4波（3～6ヶ月）医療資材・農業資材・食料品
- ナフサ不足の影響はほぼすべての分野に時間差を伴いながら波及していきます。**2026年夏以降には幅広い品目での価格上昇が現実化する**可能性があります。

建築・不動産業界への影響

ナフサショックの建築業界への影響は甚大です。ナフサを原料とする建材は、**塩ビ管・断熱材・クロス・床材・シーリング材・塗料**と幅広く**資材価格の高騰**は深刻です。また原油高による鉄骨・鋼材価格上昇・輸送費の上昇も**間接的に建築工事費のコストアップ**になります。更に建築工事費の問題だけでなく、建材の入手が困難になり、**着工遅れ、工事延期、見積もり変動**、という問題が今後出てきます。現状のナフサショックが長引くと**①新築着工戸数の減少→リフォーム工事の増加（中古住宅の見直し）②小規模工務店の経営悪化→元請・建築資材の仕入れ強い会社が生き残り**、という傾向が強くなると考えます。